

粘りの走りで躍進賞！

第54回郡市対抗県内一周駅伝大会

第54回郡市対抗県内一周駅伝大会が2月14日から16日までの3日間開催され、全33区間269.9キロにおよぶ熱戦が繰り広げられました。今年も13チームが参加し、多久市チームは、昨年より順位を上げ11位。タイムを30分以上縮め躍進賞を受賞しました。総合では小城市が2連覇を達成しました。

2月4日 多久市選手団結団式



大会に先立ち、中央公民館で行われた多久市選手団の結団式では、横尾市長が「体調を万全に、出せる力を十分に発揮してください。自己ベストを目指してチーム一丸となって大会に臨んでください」と選手を激励しました。

選手宣誓では、2回目の出場となる樋口周選手が「多久市代表として、応援してくださるみなさんへ感謝の気持ちを力に変えて、最後まで全力で走り抜くことを誓います」と力強い宣誓を行いました。



▲（左から）結団式で披露された多久市の新しいユニフォームを着用した森下義仁選手と塚原大和選手

2月14日（1日目）1区～11区



▲エースクラスの選手がひしめく2区。「樺をつなぐことだけを考えて走った」と諸田雄一郎選手



▲区間7位の力走を見せた9区の北島慎也選手



▲4年連続となる1日目の最終区11区を任された森下義仁選手

第54回郡市対抗県内一周駅伝大会

多久市選手団結団式



▲6区（11.9km）の塚原大和選手



▲荒川弘孝選手（10区：6.6km）



2月15日（2日目）12区～23区



▲北川真衣選手から樺を受け取った桃崎康太選手（17区→18区）

2月16日（3日目）24区～33区



▲24区（14.4km）の森下義仁選手から樋口周選手への樺リレー



▲「自分のペースを乱さないと決めて走り抜きました」と5回目の出場となった29区出雲一真選手



▲最終区33区（7.4km）を疾走する藤井康輔選手。「最終区というフレッシャーもありましたがチームに貢献できるような力を尽くしました」と走りを取り戻しました。



▲西山昌邦選手から堀田悠選手への樺リレー（20区→21区）



▲多久入りする西山嘉昌選手（26区8.7km）



▲橋口佳奈選手から土橋りか選手への樺リレー（31区→32区）



▲佐賀新聞社前のゴールテープを切るアンカーの藤井康輔選手



▲15.7kmの15区を走り終えた塚原大和選手



▲2回目の出場となる平川知哉選手（28区：9.4km）。「西松浦チームに何とか追いつきたいと必死でした」と振り返りました。



▲「頑張りました」と県内一周駅伝デビューの橋口佳奈選手

それぞれベストに近い走りができた

多久市チーム 船津静哉監督

「チーム全体がそれぞれベストに近い記録を出し、持っている力を十分に生かしたと思います。今回から多久市チームに加入した杉光選手のスタートでよい流れができ、十分競り合えができました。

躍進賞の獲得で選手に弾みがつき、来年につながる走りでした」と大会を振り返りました。



▶佐賀新聞本社での表彰の様子